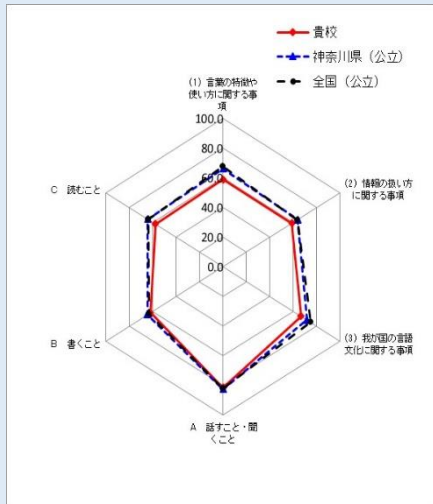


令和5年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果分析

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】



全体の平均正答率は全国を4ポイント、県を5ポイント下回る結果です。漢字を書くことの無回答が多く、漢字は分かるものの適切に使う力が育っていないことが見て取れました。

【問題別正答率の分析】

○話すこと・聞くことに関しては、自分の考えを伝える力はあるようです。

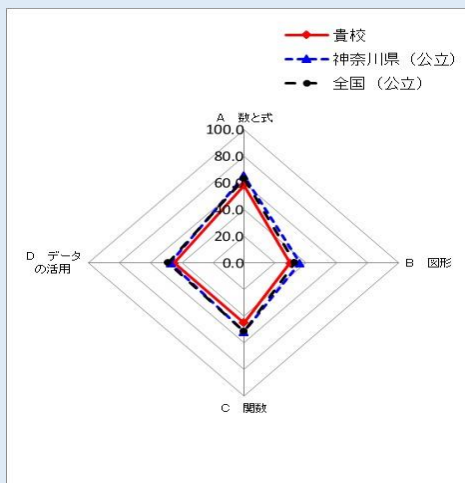
△情報の扱い(知識技能)や読むこと(思考力・判断力)に課題が見られるので、意図を適切に伝える力をつける必要があります。

記述問題は、授業中にも時間を割いたため、全国・県平均に近い正答率でした。

また、毎週、漢字ノートの提出と漢字テストを行ってきました。しかし、今後は漢字ノートの例文だけではなく、学んだ漢字を活用する学習を増やします。

今後は、初見の文章(特に説明的文章、古文)を読んで内容を捉える学習を取り入れます。

【数学】



全体の平均正答率は全国を5ポイント、県平均を6ポイント下回る結果でしたが、通過率はどの領域も全国・県の平均に近づいている。

【問題別正答率の分析】

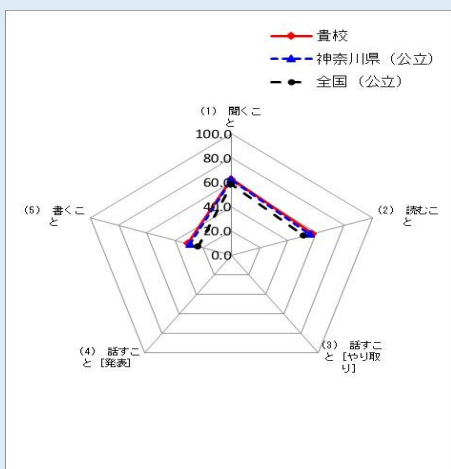
○図形分野、データの活用分野ともに、全国平均に近い結果でした。

△特に数と式、関数領域で課題が見られた。文字式の活用はもちろん、それを推論や定理を適切に選択して数学的に説明をする力に課題が発見されました。

基本的な計算等においては力を発揮できる生徒が多いですが、それを関数や図形、資料の活用に活かす力が課題であると考えられる。

それぞれの分野で、知識・技能の分野を何度も確認しながら、思考・判断・表現の分野の力を伸ばす授業を進めることが今後の課題になる。

【英語】



全体の平均正答率は全国に+5%以上、県平均にも+1%という結果でした。記述式の問題は無解答率が2~3割と高く、思考はするものの文章に起こすに至らない傾向があります。回答してある物については全国平均を上回っていました。

【問題別正答率の分析】

○読解問題は全国比を大きく上回りました。与えられた情報を理解する力がついてきています。

△聞き取りの問題が部分的に全国比を下回っており、慣れ親しんでいない場面や状況については弱いことが見て取れました。

日頃の長文速読や短文の細かい分析が文章読解の力になったと思います。

基礎的な知識は蓄えられているものの、それらをアウトプットする力が弱いので、自分の言葉で話す・書くという活動を増やします。

また、英語を聞いて状況判断する力を養う帯活動を取り入れます。

【総評】 本校では、分かりやすい授業を目指して「授業のユニバーサルデザイン化」、考えの表現力や理解力の伸長を目指した「アクティブラーニング」に取り組んでいます。また、新学習指導要領に対応するために教員の相互の共通理解を進めてきました。

本学力状況調査などの結果分析を踏まえ、教員間の授業参観や意見交換機会を計画的に実行し、教員の授業力向上と生徒の学力定着に努めていきます。